

仲間と学ぶ宿泊体験教室推進校 土浦第三中学校

1 取組の概要及び成果等 第1学年による4泊5日の宿泊体験学習

(1) 取組の概要

○ 構成的グループエンカウンター

本校の「心の相談員（筑波大学大学院心理学専攻）」を講師として招き活動した。生徒相互の人間関係を深めること、日頃関わりの薄い生徒間の交流を図ることをねらいとして取り組んだ。他の指導員の協力もあり、関わりの薄かった生徒どうしの緊張感も活動が進むにつれてなくなり、積極的に活動していた。

○ 音楽鑑賞会

プロとして活動している金管打楽器八重奏団（BRASS8）を招いて、間近で演奏を聴いた。各クラスが合奏祭で演奏した曲やポプユラーな曲からクラシックの名曲など幅広いジャンルの曲の演奏をしてもらい、すばらしい時を過ごすことができた。生徒たちは各楽器の音色に魅了させられた。

○ アイススケート実習

茨城県体育協会（財）笠松運動公園のスケート体験事業に参加した。アイススケートの施設が少ないため、家庭でもなかなか経験できない活動である。ほとんどの生徒が初めての体験で、運動を敬遠しがちな生徒も積極的に活動できた。手を取り合って協力して滑るなど90分という時間ではあったが、全員すべることができ、楽しそうな笑顔が印象的であった。

(2) 特に工夫や配慮をした事項

○ 計画段階で、生徒の希望や保護者の願いを多く取り入れられるよう配慮した。また、楽しさや辛さの中で友情を育み、お互いのよさを知るという目標が達成できるように、事前指導事項を十分に検討し指導した。

○ 宿舎外での活動では、利用施設の環境・受け入れ人数等を考慮し、計画を立てた。関わる職員数にも制限があり、その中で生徒たちが多くの時間を効率よく活動できるように移動時間をずらして取り組んだ。

○ 評価に関しては、生徒自身の振り返りとお互いの認め合い活動を大切にした。事後には、宿泊体験学習を通して得たこと、自己を見つめ、自分の生活や生き方を振り返ったことなどを作文にまとめ、発表会を行った。

(3) 成果等

○ 生徒一人一人が自分の生活を振り返りながら、互いに認め合い、進んで協力していこうとする態度が見られた。

○ 長期の共同生活により、様々な交流の機会がもて、よりよい人間関係を構築することができた。体験後の学校生活では、当番活動において今まで関わりの薄かった生徒同士でも協力して取り組む姿が多く見られるようになってきた。

○ 規律ある集団生活の中で、一人一人が自分の役割と責任を自覚してリーダーとなり、自制心や自主性、協調性を養うことができた。

○ 親元や便利な生活を離れての生活を通して、家庭を客観的に見つめ直し、自分でしなくてははいけないことに気づく契機となった。

2 学校の推進体制と学校支援委員会の活動

○ 校医による健康管理のための研修会を実施した。

○ 養護教諭による宿泊体験中の健康管理のための事前指導を充実させた。

- 保護者理解を得るための取組として、1学期末PTAでの事前説明会を開き、以下の点について理解・啓発を行った。
 - ・活動内容の概要
 - ・緊急時の対応について等
- 宿泊体験を実施する際の受入れ地域・団体、関係するボランティア、指導員等との連携・協力体制づくりについては、緊急時の対応についての共通理解、生徒の実態調査の実施・情報の共有に努めた。

成果等

- 2年目ということもあり、活動内容の充実を求める声が保護者から多く出されていた。そこで学校支援委員会での話し合いを重ね、活動内容の充実を図ったため、保護者や地域の方の理解・協力を得ることができた。
- 関係機関や指導員・看護師との情報の共有の時間を十分に確保することで連携を図ることができた。

3 今後の課題と改善点

- 生徒主体の活動内容となるよう、各教科等の年間計画との関連を図りながら、事前の話し合い活動をさらに充実させていきたい。
- 学校の職員だけでなく、地域の方にもっと関わってもらい、地域に発信していただける体験となるよう体験内容をさらに充実させたい。